



インタビュー3

関係者みんなが 楽しみながら計画策定 「ヘルシーピープル21・みえ」栄養・食生活部分における 農政・教育部局との協働

「健康日本21」の地方計画策定は、現在、各都道府県ですすめられています。栄養・食生活部分は、国においては食生活指針の策定・普及啓発など、文部科学省・農林水産省と連携して行っています。今回は、都道府県においても他部局との密接な連携により計画策定・推進している三重県の「ヘルシーピープルみえ・21」について、栄養・食生活分野の策定経緯などをうかがいました。

——「ヘルシーピープルみえ21」の概要と、栄養・食生活部分の特徴を教えてください。

岡田 これはもちろん「健康日本21」の地域計画という位置づけもあります。が、策定そのものは、平成10年度に「保健所機能強化」という視点で検討がはじまっています。追って国の計画が策定されてからは、その要素も含めて検討してきました。この計画では、個人

のQOLの向上とともにQOS (Quality Of Society) の向上、つまり一人ひとりを大切にする社会の創造まで目的としています。

また、従来の主体だった「病気や寝たきりにならないために」という身体づくりではなく、病気や障害のある人を含めすべての人が人生をいかに充実して生きられるか、その実現のために社会全体での支援をめざしていきます。そこで、生み出したキーコンセプトは「わくわく育ち、イキイキ暮らし、安らかに人生を全うする」です。行政のみならず企業や関係団体の自主的なとりくみを広く求め、毎年新しい情報や県民の意見などをとり入れて計画を追加していく「進化し続ける計画」を推進方針としています。

栄養・食生活の分野の背景には、平成9年度からの三年事業として「カルシウムアップ推進事業」というものが

ありました。従来の個別指導ではなく環境からかえていこうという視点で、スーパーの陳列棚に「カルシウムが摂りやすい食品です」というような表示をしたり、カルシウムアップのための料理コンクールを開催したりしたので、その際に農林水産商工部をはじめ、その関連団体である経済連やスーパーマーケット協会などの生産・流通団体の方にも入っていただき、これまでにない形の推進会議を立ちあげたのです。

このように、当時から食の分野では栄養だけでなく食糧や生産などにも視点が向いていたという経緯もあり、今回の計画にも反映されました。また、十三年度は農林水産商工部と協働で事業にとりくもうと、予算を立てはじめ夏ごろからひんばんに協議をかさねてきました。たとえば農林水産商工部の「地産地消」、つまり地元の生産物を地元で消費しようというとりくみを、

三重県健康福祉部健康対策地域保健グループ
技師

岡田 ひろみ氏

厚生労働省健康局総務課生活習慣病対策室
栄養調査係長

清野 富久江氏 (聞き手)